

スマート・テロワール協会 理事会開催



子育てを自然豊かな田舎で行ないたいと農村地域に移住した矢野さん

▶8月(都内)

(一社) スマート・テロワール協会は8月に開催した理事会で、2023年度の地域活動支援事業の対象に(一社)クルクル(広島県安芸高田市)と月山の粉雪普及委員会(山形県鶴岡市)の二つの団体を選定した。昨年開始した協会の地域活動支援事業の狙いは、「スマート・テロワール」の理念を地域で実現する試みに対して協会が、資金支援、助言支援、協業者紹介支援を行なうことにある。この二団体の取り組みを紹介したい。

(一社)クルクル

クルクルは2018年、安芸高田市に移住した矢野智美さんを中心に、農家と加工者をつないで新たな価値を創造し、地元を提供することを目的に組織化された。これまで、農家の栽培した農産品を加工する場(シェアキッチン)の提供や、規格外のコメを加工して製品化する試みを積み重ねてきた。協会の支援対象事業に挑戦するにあたり、クルクルははと麦やもち麦を栽培し、これを製粉して加工者につなげるプロジェクトを立ち上げる企画を策定した。

同市ではもち麦は2018年9

月より「もち麦生産振興協議会」が発足し、生産面積は約30ha、生産量は約80tに達する。また、はと麦は古くから漢方薬や滋養強壮食として重んじられている。はと麦は、耐湿性が高いので水田と畑のどちらでも栽培が可能で、水稲の生産機械の転用が容易で、来年度から試験栽培開始予定となっている。

具体的にはまず、次の課題に取り組む。

- ・製粉場の整備
- ・製粉機の導入
- ・加工者、小売業者とコラボして商品開発

月山の粉雪普及委員会

昨年度に引き続き支援対象事業に選定された。庄内スマート・テロワールの構築を目指し、月山高原農地委員会、月山ろく環境保全委員会、月山の粉雪プロジェクトが協働して立ち上げた組織になっている。

月山の粉雪普及委員会は、2021年秋に月山高原の耕作放棄地で小麦「ゆきちから」を播種して30tを収穫し、2022年秋には月山高原近隣の水田の畑地化にも取り組み、栽培面積を30haに広げ、



「月山の粉雪」の収穫風景

120tの収穫を実現している。この小麦を地元の製粉業者が石臼で製粉化し、「月山の粉雪」のブランドをつけて販売を開始した。ここまでが前年度の支援によって実現している。

今年度はこの月山の粉雪のまさに普及活動、需要開拓の活動が中心になる。具体的には次の活動を計画している。

◆安定受注のための営業活動を展開して契約栽培へつなげる

- ・個店への紹介活動
- ・セミナー、勉強会の開催
- ・Web媒体、紙媒体でのカタログ整備

◆消費者の需要喚起

- ・提供店をめぐるスタンプラリー企画の開催
- ・提供店へのほり旗、シール等の提供